

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
<p>問題一では、最近出版された本から出題された昨年度とは異なり、2007年に出版された文章が出題された。内容は、原初的な言語である「安全保障の言語」が、後期の狩猟民以来必要とされた「仕事をする言語」の肥大化した現代では衰退し、そうしたことが社会問題の背景にあるのではないかというものであった。文章は標準的なレベルのものであったし、設問の字数条件も例年に比べ厳しいものではなかったと言える。</p> <p>問題三は、「ペナルティ」を設けることによって「ルールが守られる」という一般的な考え方を否定する文章であった。同内容の事柄が具体例などによって繰り返されているが、筆者の論拠をきちんと把握し、それと筆者の主張とを論理的につなぐことが出来たかどうかによって差がつく問題だと言える。</p> <p>全体としては昨年度よりやや易化したと言えるだろう。</p>			

<本文分析>

大問番号	問題一	問題三
出典 (作者)	西田正規『人類史のなかの定住革命』(講談社学術文庫 2007年刊。初出のタイトルは『定住革命』新曜社 1986年。)	佐藤裕『ルールの科学』青弓社 2023年刊)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試で最近出題される筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3100字 昨年より約450字増	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2800字 昨年より約350字減
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題一	言語論	問い一	記述	やや難	漢字の書き取り問題。B「崖」、C「極致」がやや難しい。E「膨張」の「張」は「脹」とも書くが、常用外漢字である。
		問い二	記述	標準	傍線部に関する説明問題。抽象化した答案もあり得るが、人類史について説明した第五段落や第六段落の内容を受けている文脈に沿って書く。
		問い三	記述	標準	傍線部に関する説明問題。傍線部Dのある段落の次の2つの段落を中心に書く。
		問い四	記述	やや難	「文章全体をふまえて」、傍線部にある語句について説明する問題。傍線部自体に「原初的な言語」の説明があるが、その内容と関連する第一、第二段落の内容を取り入れることで、「文章全体をふまえて」という設問条件を満たすことが肝要である。
問題三	社会論		記述	標準	要約問題。「ペナルティ」を設けることによって「ルールが守られる」という一般的な考え方を否定する論拠を第四段落以降に探り、それと最終段落に示された筆者の主張を結びつけてまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題一については、多様な文体の文章・多様なジャンルの文章に取り組み、制限字数内で簡潔に解答をまとめる記述練習を積むこと。漢字や語句の知識の習得も怠らないようにしたい。

問題三については、評論はもちろん、エッセイや古い文体の文章も含め、やはり様々なジャンル・文体の文章を読み、200字の要約練習を行っていくこと。

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

今年度は昨年度と同様に近代文語文が出題された。設問数は昨年度と同じく三問であった。問い一は、昨年度は現代語訳の問題であったが、今年度は内容説明の問題であり、30字の字数制限が設けられていた。問い二は、昨年度は内容説明の問題に35字の字数制限が設けられていたが、今年度は理由説明の問題であり、40字の字数制限が設けられていた。問い三は、昨年度は文章全体をふまえる理由説明の問題に50字の字数制限が設けられていたが、今年度は昨年度と同様に文章全体をふまえる理由説明の問題であり、字数制限は60字であった。

<本文分析>

大問番号	問題二
出典 (作者)	福沢諭吉「人の説を咎む可らざるの論」
頻出度合 ・的中等	福沢諭吉の文章は時々出題されるが、「人の説を咎む可らざるの論」は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 1829字。787字増加 (原文を一部省略して出題された)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題二	論説	問い一	記述	標準	内容説明。30字以内。第二段落2行目「学者も亦斯の如し」に続く一文の内容を正しく把握し、字数制限内に要領よくまとめる。
		問い二	記述	標準	理由説明。40字以内。傍線二の意味を確認し、第四段落前半の内容を捉えて、理由説明の答案として字数制限内に簡潔にまとめる。
		問い三	記述	やや難	理由説明。60字以内。第一段落の比喻を正しく把握するとともに、第三段落・第四段落後半の内容に注目し、字数制限内に要領よくまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題二は、現古融合文、現漢融合文、近代文語文、近世の古文など様々な形式や文体の出題が考えられるが、近代文語文の出題の頻度が高いため、古文や漢文の標準的な学習を怠らないようにするとともに、とりわけ漢文訓読の訓練を積んでおくこと。  
必要な要素を制限字数内に要領よくまとめることが要求されるので、現代日本語の表現力を高め、答案作成の練習を怠らないこと。